

世界で初めて

赤色のキバナコスモスモスを育種した

育種家・橋本昌幸さん

ま ち ゆ き



サンセット

戦後間もない昭和20年代のことです。キバナコスモスの黄橙色の花をもっと赤くしてみたいと願った若者がいました。千葉農業専門学校園芸科(現・千葉大学園芸学部)に学ぶ紫波町出身の橋本昌幸さんその人です。橋本さんは、15年以上の歳月を経て、赤花のキバナコスモスの育種に成功しています。サンセットと名付けられた花は、今では世界の人々に愛され親しまれています。容易ではない育種の道を歩んだ育種家・橋本昌幸さんについて、盛岡市在住の妻・富久さんからお話を伺いました。その偉業をここにご紹介します。

プロフィール

1928年、紫波町生まれ。1949年、千葉農業専門学校園芸科(現・千葉大学園芸学部)卒。北海道大学理学部研究生、九州大学理学部助手を経て、1950年より岩手県にて植物育種を実践。1966年、キバナコスモスの赤花品種サンセットの品種改良が認められ、オール・アメリカン・セレクションズ(AAS)のゴールドメダルを受賞。同年園芸学会功労賞受賞。1986年には、サンセットのわい性品種サニーレッドでAASシルバー賞を受賞。キバナコスモス、バラ、ポインセチア、サクラ、スイセン、ユリ、パレイシヨ、トウモロコシほか多数の育種を手がける。育種研究実践の傍ら岩手大学の講師を務め、園芸愛好家への指導も行っていた。2003年11月26日逝去。



橋本昌幸さん

夕映えの美しさを 花色に実現したいと 夢見て歩んだ育種の道

植物育種とは、植物の遺伝的性質を利用して、新種を人為的に作り出したり、改良したりすることです。橋本さんが着目し

たのは、細胞遺伝学を応用する手法でした。橋本さんは、早くから現在のバイオテクノロジーにも通じる育種研究を実践した人として知られています。

橋本さんは、大学の卒業旅行で見た夕日の美しさに感激し、夕映えの美しい赤色をキバナコスモスの花色に再現することを夢見たといいます。大学卒業後も夢にかける情熱は衰えることなく、15年以上の歳月をかけて品種改良を重ね、赤色に輝くキバナコスモスの育種に成功しました。そのとき橋本さんの胸に去来した思いを知ることはいませんが、育種の道の厳しさを知るものだけが味わうことのできる達成感や感激があっただろうと想像することはできます。橋本さんは、1966年、キバナコスモスの赤花品種サンセットの品種改良が認められ、オール・アメリカン・セレクションズ(AAS)のゴールドメダルを受賞しました。AASは全米の新品種の検定機関で、日本人の受賞が大